

卒業生の活躍 坂本花織さん GP ファイナル優勝 北京オリンピック 銅メダリスト

To the Next Stage

進路通信 道標

2023(令和5)年

12月号 第4号

神戸野田高等学校 進路指導部

「進路実現に向けて」2学期の取り組みを振り返ってみよう

進路実現に向けて、3年生は入学して以来、さまざまな経験をしてきたと思います。それぞれの時期に取り組んできたことをこの機会に振り返ってみて欲しいと思います。2学期、学年の先生方や「総合的な探究の時間」担当の先生方がいろいろと相談され、企画して、次のような進路実現に向けての取り組みが行われました。



1年 大学生講演会(10月)、職業人講演会・進路ガイダンス(12月)第1学年団、「総合的な探究の時間」企画

- ・卒業生講演会(10月28日)：卒業生で現在大学の1年生～4年生を招いて大学4年間の体験を全体として聞く企画は今回初めて。最も年齢が近い1年生からは高校時代の話や受験の心得、2年生からは大学生活の様子、3・4年生からは就職や生き方について深い思いが聞けました。
- ・職業人講演会・進路ガイダンス(12月11日)：卒業生を含む専門的分野で活躍する社会人を招いた講演会。大学進学後警察官となった卒業生から、神戸野田高校での生活や進路選択の状況、大学生活、専門職としての使命感などが聞け、また他の看護師など2人の職業人からも将来を具体的にイメージできるお話を聞くことができました。引き続き実施した進路ガイダンスは、5～6人に分かれ、「すごろく人生ゲームを通じて、各ライフステージにおけるイベントや得られる給与、収支を理解し、満足度の高い生き方について考える」をテーマにグループワークを実施。講演会とグループワークの両方の良さが生かされました。

2年 進路ガイダンス(12月12日) 第2学年団企画

- ・目的：生徒各自が将来のキャリアを見据え、関心を持つ志望分野について情報収集を進めながら考察を深めることによって、進路実現の道筋を主体的に考えるための機会とする。
- ・内容：大学・学校別ガイダンスを含む志望分野別講座。進学志望、就職志望に大きく分かれて実施。今回は進学志望の内、医療看護系については医療看護受験対策講座とガイダンスを一貫して行いました。大学受験講座では、予習→授業→復習のサイクルの徹底やわからないことをその日のうちに解決すること、模試の復習など、安定した実力の定着の重視などの説明がありました。対策講座は、外国文学・外国語学、心理学、教育学、法学、経済学・経営学など約30講座。出席大学等は、公立大4、私立大25、専門学校11。

3年 卒業生講演会(特進コース) 人権教育講演会ビデオ鑑賞等(進総コース)(11月17日) 第3学年団企画

- ・卒業生講演会：母の病気の新治療薬の開発を目標に薬学部を目指し一般入試の後期まで頑張り合格した昨年の卒業生と、最後まで受験にトライし続けたが志望校に合格できなかったが第一志望の教員採用試験に合格した大学4年生の卒業生から、大学受験について「努力は裏切らない」「置かれた場所で花を咲かせる」「分からないことをなくす」などの具体的な心得や対策の話聞き、勇気づけられました。
- ・人権教育講演会ビデオ鑑賞：県立学校教諭で視覚障がい者、ブラインドサッカー選手の講演ビデオを鑑賞。生き方に学ぶとともに、人権意識の向上を目指しました。

進路に関する取り組みの予定 (3学期)

◆3年生	◆2年生	◆1年生
1月5日～ 共通テスト直前対策	1月7日 進研模試	1月9日 進研模試
1月13・14日 共通テスト	1月10日 進路希望調査、実力診断テスト	1月10日 進路希望調査
1月下旬～ 私大一般選抜	2月3日 共通テスト模試	実力診断テスト
2月下旬～ 国公立2次試験	3月7日 小論文模試	3月7日 小論文模試

坂本花織、GPファイナル初Vでシニア主要国際大会メダル制覇 得点見て「えー！うわあ！」

フィギュアスケート グランプリ(GP)ファイナル ▽最終日(9日、中国・北京) フリーが行われ、女子は世界女王の坂本花織(23)＝シスメックス＝が、ショートプログラム(SP)に続き、フリーも1位の148.35点、合計225.70点で初優勝。シニアの主要国際4大会すべてでメダル獲得となり、日本女子では荒川静香、浅田真央に続く3人目の快挙となった。

ついに自分に勝った。坂本は得点を見て思わず「えー！うわあ！」と大きく口を開けて驚いた。過去2度、メダルに届かなかった舞台上、頂点に立った。主要国際4大会すべてのメダル獲得は荒川静香、浅田真央に続く快挙。すぐに目元が光った。ティッシュであふれ出る涙を拭いた。

「(自分に)よくやったと言いたい。ライバルは過去の自分。打ち勝てたのでうれしかった」。ようやくはじける笑顔が戻った。

ミスも即挽回 歓喜の時も、悔しい時も、ともに歩んできた中野園子コーチに背中を押され、いざ勝負へ。4本目、得意の3回転フリップで単発になるも、世界女王は経験値が違う。「リカバリーできる」と、冷静に最後の3回転ループを連続に。「今、自分ができることは8割、9割できたと思う」と胸を張った。

シーズン前半の世界一を決める今大会は、坂本にとって“鬼門”だった。五輪では22年北京で銅メダル、世界選手権は2連覇中で、四大陸選手権は18年大会を制したが、主要国際大会では唯一メダルがなかった。「今年こそは」。強い覚悟で、“3度目の正直”となるファイナルを迎えた。

全日本V3へ 初めて出た18年は4位。4年ぶりに出場した昨年はSP首位も、フリーで最下位に沈み、優勝候補がまさかの5位だった。「もう、これっきりにしたい」と誓った。北京五輪直後で目標を見失い、モチベーション維持にもがいた昨季とは違い、今季は「明るい気持ちで挑んでいる」と坂本。夏に痛み出した右足甲もテーピングなしで滑れるまでに回復した。「不安要素なし」と、心技体で準備万全だった。ようやく壁を破り、「これからの糧になる」と自信を深めた。次の全日本選手権(21日開幕・長野)では、3連覇へと突き進んでいく。(報知新聞社2023年12月10日より)



答えること問うこと (PHP2024年1月号より)

試験が始まり、問題用紙が配られる。「始め」の声に用紙をめくって問題を見る。緊張が走る。問題をゆっくり眺めながら、学んだ知識を整理して解答に取りかかる。こうして学生時代、どれだけの問いに答えてきたことだろう。

大人になると、問題用紙は配られない。その代わりに、仕事の進捗一つひとつが大問題、日々対応にかかり切りになっていく。こんな具合で、私たちは与えられた問いに答えるばかりの人生を歩んできた感がある。

それが悪いわけではないけれど、そんな人生にどっぷりと浸かっている今だからこそ、みずから問う、みずからへも問う姿勢が必要ではないだろうか。問えばたくさんの意義が現れる。知るために問うのはもちろんで、それが理解を深め、考えを究める。またみずからを解放するためにも、問うことは重要だ。やりたいことを忘れずに、やるべきことばかりに左右されないように。本当の自分とはいったい何者なのだろう？

人生の主役は自分。そうあるために、答えると同時に問うことを怠ってはならない。

2023年も残すところあと10日程となりました。クリスマスもうすぐですね。私はこの「～まであとX日」とか「もうX日で～」という言い方をよくします。「おしまいのことばかり考えるのは止して！」と娘や妻にはしばしば叱られますが、だってゴールが見えないまま走り続けるのも、それはそれで辛いじゃないですか。時間的制約があるからこそ、そこまでに〇〇を仕上げようとか、□□は完成させようとか、目標を決めて頑張れるんだと思うのです。

でも、そのゴール当日を迎え、目標も無事に達成し、それで「めでたしめでたし」かという、人間ってのは不思議なもので、いつの間にか新たな目標を立ててスタートを切り始めちゃってるんですね。某予備校のポスターで「△△大の先に行く」というのが過去にありました。某マンガでは「ゴールラインは次へのスタートラインだ」という台詞も語られています。結局、我々はエンドレスで走り続けていかねばならないようです。それでも挫けてしまわぬように、節目節目のゴールと目標を定め、そのゴールテープを切った暁には喜び、ときには進んできたコースを振り返ってみたり、次はまったく違う目的地を目指してみたりしながら、生涯をかけて歩んで行くのでしょう。

さて、3年生は卒業まであと2か月です。高校生活の集大成として、それまでに何を成し遂げますか。1・2年生は各学年の修了まであと3か月です。最終学年の秋には進路を決める試験も始まってしまいます。それまでにどんな準備をしておきますか。焦ることはありません。短い冬休みですが、ラストスパートのエネルギーをしっかりと充電する有意義な時間にしてください。2024年もみなさんにとって素晴らしい年になりますように。

(進路係 出口)

【裏面へ】合格体験記、進路情報など

最後まで諦めないこと 受験勉強は孤独で、はっきり言ってしんどい

関西大学 文学部 合格〔一般選抜〕 2021年度卒業

私は第一志望の総合人文学科に合格しました。本格的に受験勉強を始めたのは高校3年生になってから。最初は何をしていたかわからず、模試の結果も悪かったです。夏休みは、勉強の習慣を続けることができなかったので、映像授業で勉強の習慣をつけました。映像授業で集中力を高めて、その後の勉強に取り組みました。主に英語は文法と長文、国語は古典単語と古典文法、日本史は基礎的な用語と流れを意識して勉強しました。

しかし夏休み明けの模試の結果は思うように伸びず、本当に夏休みの成果がでていないのか分かりませんでした。滑り止めとして公募制推薦を受けた時も1校不合格で勉強法に自信を持てませんでした。そこで12月頃は苦手教科中心の勉強、1月頃は毎日過去問を解くことにしました。過去問では、最初の頃は合格最低点に届かないことがあったけど、合格最低点を超えることが多くなった時は自信につながりました。その自信をモチベーションに1日最低でも12時間以上勉強しました。

私が一般受験において伝えたいことは2つあります。1つ目は過去問の分析を徹底的にすることです。過去問の傾向を知っておくと本番で焦ることがないです。2つ目は最後まで諦めないことです。受験勉強は孤独で、はっきり言ってしんどいです。それを乗り越えるには諦めない気持ちしかないと思います。

徳島大学 理工学部 合格〔一般選抜〕 2022年度卒業

私は受験に力を入れるのが他の人よりも遅かったと思います。それは将来なりたいたいものがないとか自分はどうせできないとか自分がやれない理由を作ろうと逃げていたからです。そんな事をして多くの時間を無駄にしました。そんな無駄な時間を経てやるしかないという思考に至ったのは夏の後半でした。それからは今までにないほど力を入れましたが、公募では周りの友達がみんな受かっている大学には落ち、共通テストでは十分な点数を取ることができなかったため、第一志望を変更することになり、私立でも苦手な英語を使った受験ではほとんど落ちました。共通テスト以後、担任の先生、予備校の先生や親と相談して徳島大学を目指すことになり、そこからはさらに勉強して、合格を勝ち取ることができました。

しかし、やはりもっと勉強に力が入るのが早ければより良い結果が得られたのではないかと、考えてしまっています。そうならないためには、もっと早くに目標を定めるか、やるしかないという考えにもっと早く辿り着くべきだったと思います。自分はどうせできなくてもやるしかない、自分には将来なりたいたいものがないけどやるしかない、そういった思考は賢くはないかもしれませんが、その考えも時に必要であると今では考えています。

また、私は受験には合計すると5回以上落ちました。その時に諦めずに勉強を続けられたことが今の進路に繋がったと考えています。

神戸薬科大学 薬学部 合格〔一般選抜〕 2021年度卒業

私がこの進路を選んだ理由は、薬剤師の資格が欲しかったことと、大学で化学を学びたかったからです。高校への進学時は、進学総合コースを受験しました。高校1年生の時に進路について考え始め、大学でも化学を学びたいと思うようになりました。進路実現のために理系コースに進む必要があったため、編入試験を受け、2年次はアドバンス理系に属しました。どうしても大学受験に向けてSコースで勉強したかったので、2年で学力をつけるよう努力し、3年次にはSコース理系へ編入することができました。

受験勉強を本格的に始めたのは3年生の夏休みからです。学校のワークなどを使って主に基礎を固めました。11月に公募推薦があり、英語・化学の2科目で受験し、他の大学の薬学部やその他大学の理学部に合格しましたが、志望校に合格することができませんでした。そのため、12月以降は一般入試に向けて切り替えて勉強しました。一般入試は前期、中期、後期とチャンスがあったので、たとえ不合格でも後期までやりきるつもりでいました。英語は前期まで、数学は中期まで、化学は後期まで必要だったので、化学>数学>英語の優先度で勉強しました。年明けの共通テストでは、よくない結果（特に数学）だったので、試験3週間前からは化学：数学：英語を4：4：2くらいの割合で取り組みました。私は塾に通っていませんでしたので、自由登校となった3学期からはほぼ毎日学校に来て、過去問を解く→解き直しをする、を繰り返しました。分からない問題は、先生に質問して教えてもらいました。直前に新しい問題に触れて解けなかったら不安になるので、1週間前からは新しい問題は解きませんでした。前日は好きな分野の問題を解いて、とにかく不安を残さないように当日を迎えました。私は、模試の判定は良くてもD判定でしたが、それでも合格できたので、諦めないことは大切だと感じました。

「合格体験記」より

・最後まで諦めないこと 受験勉強は孤独で、はっきり言ってしんどい

・辛いと思うこともあるかもしれませんが、そのときは「今の自分が未来の自分を助けるんだ」という気持ちで踏ん張ってみてください。そして自分がこれまで積み重ねてきた時間と努力を信じてください。きっと大丈夫。

進路実現のために、また社会ではどのような力が求められているだろうか？

社会が求めている人材とは何か？令和4年12月県高校進路指導研究会私学部会 土橋氏の講演より

・専門的・実学的能力を高める上で土台となる、幅広い教養と論理思考能力を育成するために必要な基礎学力を有し、知識の量だけではなく、社会的視野を持ち、大学での学習に対する意欲と熱意があり、多様な背景を持つ者と協働して学ぶ寛容の精神と主体性を持ち合わせ、優れた感性と特性を持った学生」（同志社大学）
・「夢に向かって果敢にチャレンジし続けられる人。素直な心、ひたむきさを持っている人。グローバルな視点を持っている人。」（京セラ 求める人物像）

以上のように、社会や大学は、主体性や知的好奇心、向上心を有している生徒・人材を求めています。また、「今後の社会の展望と求められる力」については、社会の動きに目を向けるとともに、

①武器となる**専門性**がある ②**幅広い教養**を有している（背景：知識の関連付け） ③**主体的**に動ける

④**時代の変化に合わせて臨機応変**に動ける ⑤**コミュニケーション能力**がある

このような社会の求めに応じるため、文部科学省は新教育課程などを編成してきている。今年の1年生から学んでいる新教育課程は、学びとしては今年度から本格化したのが、すでに社会が求める力は、これまでも入試等で求められてきており、特に「**主体性**」は、昨年度の入試でも今年度入試でも大変重視されている。

総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜の志望先大学等に対して、受験生が示すべき点は、

①**入りたい意思を明確に示すこと** ②**将来像の具体性** の2点。小論文や志望理由書、面接などにおいて明確に示すことが合格の前提となる。また、**英検等の上位級の取得**も重要である。多くの大学で総合型選抜や学校推薦型選抜へのシフトが徐々に進む中、皆さんはこの点を真っ先に意識してください。新聞の社説などを使用した小論文対策は、**表現力と幅広い教養**（知識の関連づけに不可欠）を身に付けるのに有効である。

先日、本校が連携協定を結んでいる神戸親和大学（令和5年度から共学）の連絡会に出席しました。この会で、就職が内定した大学4年生3人の大学生生活の話がありました。3人とも明確な目標を持ち続け、深い学びや人に出会い、就職を決めていました。そのうちの1人は、航空会社の客室乗務員に内定。コロナ禍の中、オーストラリアへの長期留学が急にアイルランドへの短期留学に変更となり、十分な海外経験が積めない中、ICTを活用した海外との交流などに積極的に取り組み、進路実現に繋がったとの話がありました。また、昨年度中学校国語の教員採用試験に合格したお話では、高校生のころから教育や福祉、子どもに関わる仕事に就きたいと考え、大学1年生では児童館でのボランティア、2年生からはガイドヘルパー資格取得や中学校スクールサポーターなど具体的な体験を積み重ねています。大学での講義以外に実践的な教育支援活動を行うことが、合格に大きく影響しています。

生き方や目指す職業が見えてきたら具体的に行動すること、またその行動によって新たな発見があり、目標や課題が明確化していった、進路実現に結びついていきます。**高校生活においても、基礎学力をつけるとともに、目指す職業や仕事の中身について調べ、ある程度の専門的知識を得ていくことも大切**です。

3年前に卒業した皆さんの先輩で、児童福祉についての知識を深めるために貧困問題についての書籍を読み、実際に子ども食堂に取材に行き、そのことなどを小論文に書いて、第一志望大学に合格した人がいました。この先輩は、10月に、1年生に講演してくれました（下に「進路の手引き」の合格体験記を紹介）。

社会や大学が求めている力は、基礎的な学力とともに主体性・積極性、行動力・実践力などです。前者は、主に授業で、**後者は総合的な探究の時間や部活動、またリベラル講座や人権教育などの講演会などの機会を有効に活用して、思考を深めたり、内容を振り返ったりして、自分にとっての意味を見つけること**です。神戸マラソンボランティア体験や、地域清掃などの地域貢献活動なども良い機会です。何かを学んでください。



大阪府立大学 地域保健学域教育福祉学類 合格〔学校推薦型選抜 公募制〕 2020年度卒業

私は第一志望である大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類に合格することができました。これは自分の力だけでなく、受験までサポートして下さった家族や先生方、友人のおかげです。

私が推薦入試に向けて本格的に準備し始めたのは、3年生の夏でした。最初に取り掛かったのは志望理由書の作成です。私は、今までの経験や資格などのポイントごとにまとめ、大まかな流れを書いてから文章を構成していきましました。また、何度も先生方に添削していただくことで、より良い志望理由書を書くことができました。志望理由書を書く際には、自分自身の経験だけでなく、なぜその夢を目指しているのかや、なぜその大学に入学したいのかを改めて深く考える必要があります。また、児童福祉についての知識を深めるために貧困問題についての書籍を読み、実際に子ども食堂に取材に行きました。小論文対策では大学の過去問を中心に、何度も繰り返し小論文を書いて先生方に添削していただきました。面接は、複数の先生方に練習していただくことで、自分が答えられないところが明確になり、その部分について調べ、もう一度熟考してまとめることができました。

最後に、受験に向けて最も大切なことは、日々の努力と何事にも積極的に挑戦することです。普段の授業や課題、定期テストにコツコツと取り組むことが3年間で大きな力となり、高校生のうちに経験したボランティアなどは、受験だけでなく将来にもきっと役立つと思います。

入試が近くなるにつれて、焦りや不安に駆られることもあるかもしれませんが「今頑張れば大丈夫」と自分を信じていることが大切だと思います。受験を控える皆さんが希望の進路を実現できますよう応援しています。